

奈良～室町時代 政治史②

3 次のA～Dの文章を読み、あとの各問いに答えよ。

A 後三条天皇は藤原摂関家を抑えて皇室の権力の回復に努めた。次の白河天皇は譲位後も院庁で国務をとり、中央政府の実権は摂関家から上皇（院）へ移っていった。院政時代の上皇は造寺・造仏を盛んに行い、高野山・熊野へしばしば参詣した。この時代、大寺院は僧兵を抱え、自分たちの要求を通すために朝廷へ強訴することも多かった。また、院政時代には、上皇と天皇は次第に離れて対立するようになり、それにつれて貴族も二派に分かれて反目・対立するようになった。鳥羽法皇が亡くなると、上皇方と天皇方に分かれた貴族は、源平の武士と結んで戦うことになった。

問1 下線部①に関する記述として正しいものを、次の中から選び、符号で答えよ。

- ア. 延久の荘園整理令を発して記録荘園券契所を設け、厳しく荘園を整理した。
- イ. 宣旨柙を制定し度量衡の統一に努めたが、不徹底に終わった。
- ウ. 反摂関家の立場の大江広元らを採用して、皇室の権力の確立に努めた。
- エ. 北面の武士を設けて武力をたくわえたため、治天の君と呼ばれた。

問2 下線部②に関して、白河法皇が「賀茂川の水、双六のさいの目、山法師、これぞ朕が心に随はぬ者」と嘆いた山法師とは、どこの寺の僧兵か。次の中から選び、符号で答えよ。

- ア. 延暦寺
- イ. 金剛峰寺
- ウ. 興福寺
- エ. 東大寺

問3 下線部③に関して、天皇方について人物を、次の中から選び、符号で答えよ。

- ア. 平忠正
- イ. 藤原忠通
- ウ. 平忠盛
- エ. 源為朝

B 平治の乱に勝利をおさめた平清盛は、武士として初めて太政大臣となり、一族の多くの者も高位高官にのぼった。さらに、平清盛は娘を高倉天皇の中宮とし、その皇子を次の天皇にすることで、外祖父として権力を強めた。また、多くの荘園や知行国を持ち、畿内や西国の武士を家人として組織して軍事力を強めた。さらに、日宋貿易の振興にも力を入れ、輸入された銭貨は国内通貨として流通した。しかし、やがて平清盛は、法皇（上皇）や大貴族、大寺院との対立を深め、法皇の近臣による平氏打倒計画も練られるようになった。

問4 下線部④がつくった平氏政権は、武士政権でありながら、摂関家に似て貴族的性格が強いといわれる。平氏政権の貴族的性格について、30～40字で記せ。

問5 下線部⑤に関して、この計画と関係の深い人物を、次の中から選び、符号で答えよ。

- ア. 藤原忠通
- イ. 藤原通憲
- ウ. 藤原信頼
- エ. 藤原成親

C 源頼朝の死後、鎌倉幕府では源頼家・実朝兄弟が相次いで将軍となったが、御家人の信望を得ることができず、有力御家人間の対立が生じて、幕府は危機に直面した。この時、幕府内で勢力を伸ばしたのが北条氏であった。北条氏は有力御家人を次々に滅ぼし、義時が政所・侍所の別当を兼ねて幕府政治の実権を掌握した。その一方で、朝廷では、後鳥羽上皇が院政を強化し、討幕の機会をうかがっていたが、1221（承久3）年、ついに北条義時追討の兵をあげた。

問6 下線部⑥に関して、源頼朝の死後、源氏将軍の専制を抑えるために、有力御家人らによる合議制の政治が行われた。この合議に参加した有力御家人らは全部で何名か。算用数字で記せ。

問7 下線部⑦に関して、北条義時が政所と侍所の両別当を兼ねる契機になった合戦を何というか。漢字4字で記せ。

問8 下線部⑧に関して、この乱ののち、京都守護に代わって新たに設けられた役職を何というか。漢字5字で記せ。

D 承久の乱のあと、幕府政治は合議制で行われていたが、次第に北条氏の嫡流が政治の実権を握るようになった。この傾向は元寇以後いっそう進んだ。得宗専制政治が確立すると、北条氏得宗や御内人と御家人との対立も多くなり、内管領の平頼綱が、御家人の信頼を集めていた一族と東国の御家人500余人を滅ぼす事件も起きた。

問9 下線部⑨に関する記述に該当しないものを、次の中から一つ選び、符号で答えよ。

- ア. 北条泰時は、執権を補佐する連署に叔父の時房をあてた。
- イ. 北条泰時は、有力御家人らの中から評定衆を選んだ。
- ウ. 北条時頼は引付の制度を設け、引付衆を任命した。
- エ. 北条時頼は摂家将軍を廃し、皇族将軍を迎えた。

問10 下線部⑩の一族をたばねていたのは誰か。次の中から選び、符号で答えよ。

- ア. 畠山重忠
- イ. 梶原景時
- ウ. 安達泰盛
- エ. 三浦義澄